

寺社Now

www.jisya-now.com

寺社の"いま"を伝える情報誌

vol.25

巻頭インタビュー

融通念佛宗 管長
第六十七世総本山大念佛寺 法主

吉村 暉英

特集1

伝統の継承と寺社振興を兼ねた取り組みに注目!

酒で地域と寺社活性

特集2

LGBTツーリズムを
寺社振興につなげる





02 巻頭インタビュー

融通念佛宗 管長
第六十七世総本山大念佛寺法主

吉村暲英

すべての人を受け入れる「融通無碍」。
それを体現する場所として総本山から情報発信

08 新風

NEWS 1/西本願寺・聞法会館で「みんなの笑顔食堂」開始
NEWS 2/「長谷寺大観音大面軸」のデジタル出開帳を実施
NEWS 3/文化財復元や神社復興に寄附が集まる新たな動き

10 動静

NEWS 1/観光戦略実行推進会議にて「テラハク」が議題に
NEWS 2/栃木県小山市が高椅神社から「世界に誇る和食」を発信!

11 未来考創

社寺観光と東北復興 東北観光推進機構専務理事/紺野純一

12 特集

伝統の継承と寺社振興を兼ねた
取り組みに注目!

酒で地域と寺社活性。

14 事例1/大学と共に取り組み、つなぐ。伝統のどぶろく造り
白鬚田原神社(大分県)

16 事例2/先人たちの意志を引き継ぎ、利酒会で交流を生み出す
大山阿夫利神社(神奈川県)

18 事例3/寺を続けていくためと考えた事業が寺の認知拡大に
浄土宗梅香山 崇徳寺(青森県)

20 事例4/行基が広めた甲州ぶどう。ワイン造りで地域とつながる
真言宗智山派 柏尾山大善寺(山梨県)

伝統を未来へ～From the Past to the Future～

22 宗派を超えて仏教・僧侶のあり方を考える
日蓮宗妙忍山妙性寺 近藤玄純

23 職人が減少してもチームで品質と技術を次世代へつなぐ
谷口松雄堂 谷口主嘉

うちのお宝

24 迦葉山龍華院 弥勒護国禅寺「大天狗面」(群馬県)

25 御釜神社「神釜と塩づくり」(宮城県)

26 特集2

世界中で大きなうねりが起きている

LGBTツーリズムを 寺社振興につなげる

30 テラハクレポート/真言宗御室派 霊峰山如願寺(大阪府)

マンション



商業施設



賃貸住宅
「シャームゾン」

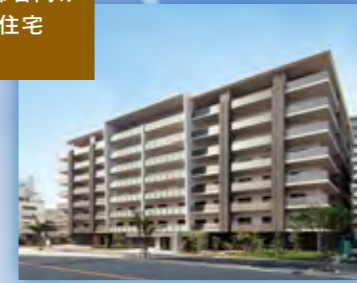


積水ハウスの 土地活用

オフィス



高齢者向け
住宅



クリニック



土地を活かす。地域が活きる。

土地活用とは、土地の価値を地域に活かすこと。積水ハウスは、住宅のリーディングカンパニーとして培ってきた総合力で土地の可能性を引き出してきました。入居者の多様なニーズに対応する賃貸住宅「シャームゾン」や高級感あふれる中高層マンション、時代が求める高齢者向け住宅など、地域貢献につながる土地活用を積水ハウスがご提案します。



積水ハウス株式会社 西日本特建支店

〒531-0076 大阪市北区大淀中1-1-93 梅田スカイビルガーデンシックス4F



土地活用に関するご質問やご相談についてもお気軽にどうぞ。



0120-131-470

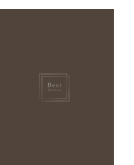
西日本特建支店

検索

資料をご希望の方は、フリーダイヤルでご請求ください。
ホームページからもお申し込みいただけます。



積水ハウスの賃貸住宅
「シャームゾン」総合カタログ



積水ハウス西日本特建支店 実例集
「Best Solutions」

融通念佛宗 管長

第六十七世総本山大念佛寺法主

吉村 暉英

よしむら
しょうえい



吉村 暉英

昭和15(1940)年生まれ。昭和38年池島大善寺住職就任、平成18年室生西光寺住職、平成25年住職50年表彰を経て、平成31年1月より現職。平成19年より同28年まで宗務総長を務めたほか、布教師理事、教学研究所所員、教師検定委員、勸学林教授および学長など重責役職を歴任

■平安時代後期に成立し、大念仏宗、融通大念佛宗と呼ばれ親しまれてきた融通念佛宗。その総本山大念佛寺は大治2(1127)年に良忍上人が聖徳太子の夢のお告げを受け、鳥羽上皇の勅願により根本道場を現在の大阪市平野区に創建したのが始まりです。大念佛寺で毎年5月1日から5日に行われる「阿弥陀経万部読誦聖衆来迎会(万部法要)」は宗派最大の行事。一般には「万部おねり」として知られています。期間中は全国各地から参拝者が訪れ、圧巻の儀式だけでなくさまざまなイベントも開催されるなど賑やかで、まさに融通念佛宗が説く「和合」を体現しているかのようですが、人々がひとつになることを、今後はどのように高めていくのか。

今年1月に融通念佛宗管長、第六十七世総本山大念佛寺法主に就任された吉村暉英管長に伺いました。

すべての人を 受け入れる「融通無碍」。 それを体現する場所として 総本山から情報発信

善道に導いていく
使命を愚直に進める

総本山大念佛寺は、地域の人々の

の拠りどころとして親しまれていま
す。また先行き不透明な社会にあっ
て、その存在が注目されているよう
にも感じます。

私は宗務所に長年勤務しており、
本山に育てていただいたと感じてい
ます。以前から教学部門においてい

ろいろと仕事をしていたのですが、
宗義の勉強と布教という2つの要素
は、これからも継承していきたいと
考えています。

私が好きな言葉として、法華経に
「常説法教化」があります。この言葉
に背中を押され、僧侶はどんな場合
でも法を説いていかなければならぬ、
そしていかなる時も人々を少しでも
善き道へ導いていかなければならぬ
という使命を帯びていると、今あ
らためて感じているところですが、
すから管長になった今も、総本山で
の僧侶研修会をはじめ檀信徒対象
の定例布教や仏教講座にも登壇し、
お話ししています。

大念佛寺には、山門「融通無碍門」
より入ります。男女や貧富の差など
一切の違いを取り払い、ひとつに和
合する世界、それを融通無碍と言
うのですが、これを体現した場所こ
そ大念佛寺です。仏の大いなるご縁

喜びや幸せを願う 心に応えていく。 その努力を怠らない

をいただいてひとつの世界にいる、この考えを徹底していきたいと常々思っています。そのためにはひとりでも多くの方に、法要や年中行事の際に参拝してもらえらる方策を立てなければなりません。宣伝も必要ですが、まずは受け入れる我々の心構えが重要です。参拝して良かったと思っていただけのためには、僧侶一人ひとりが最善を尽くすこと。その姿勢は必ず伝わりと感じており、だからこそ日々の努力で、少しでも仏教の良さを感じていただける場所にしなければなりません。

ためには、地域などいろいろな方との関わりも重要になってきます。

融通念佛宗は、とても庶民的な宗派だと思っています。それほど大きくはない宗派ですが、その教えは全国に今も残っています。例えば虫送りの法要や疫病退散の祈り、家畜の健全生育祈願、雨乞いなど、庶民の生活に密着した願いというものに応えてきたわけです。地域と共に生きていく、これはとても素晴らしいことだと思えます。私たちは生きていくうえで、身近な、安心できるものを探しているものです。ですから、難しい教義も大事なのですが、融通念佛の広がりがあることを自覚し、目の前で苦しんでいる人をどう助けていくのか。一人ひとりの喜び、

一人ひとりを大切にし、その気持ちに応えていく、より多くの方に来ていただく、格さには欠けているけれども和やかさは100%。これが特徴です(笑)。門の前も境内にもお店がたくさん並び、賑わいます。私も小さい頃から「万部おねり」を大変楽しみにしてきました。当日、山門をくぐった先に大屋根を仰ぎ見たときに「ああ、いいなあ」と大きな喜びを感じたものです。お寺にお店が出て賑わうことは、仏様のお膝元で和やかに過ごせるという思いをみなさんに持っていただけのことだと思えます。参拝して「楽しかったなあ」「ありがたかったなあ」「よかったなあ」と思っていたきたい。ですから、漫才師をはじめ、いろいろな演者が来ます。それらを本堂内陣の舞台で披露していただき、僧侶も一般の方も共に手を取り合って楽しんでいる姿を仏様に見ていただき、喜んでいただくというのがコンセプトです。

家族の幸せを願っている心に、宗教者として応えていかなければなりません。

大念佛寺のある大阪市平野区は夏祭りが盛んです。近くの杭^{くまた}全神社のお祭りに際して、うちは氏子ではないから、というのではなく、神社と地域とが一体になって、区別することなく祭りを盛り上げています。神仏一体ということは庶民の祈りと私たちが共にいるということ。融通念佛はこれを大事にしていかなければなりませんし、また共にいるという心なくしては、大念佛寺も融通念佛宗も、存続できないと思えます。ですから、より多くの人に喜んでもらうためにどうするべきかという努力は、日々忘れてはいけな思っています。

みんなが楽しむ姿を 仏様に見てもらおう場

生活に融け込んできたからこそ、今もこれからも、人々と一緒に歩んでいくわけですね。祭りでは、「万部おねり」も地域と一緒に作り上げてきたものです。

「万部おねり」は、他宗派の法要や行事とはちよと違っています。厳

このような行事を含め、これからは「観光」がとても大事だと考えています。大念佛寺は観光面で遅れていると感じていますが、すべての人々が融け合う場所ですので、美しくある心、生きる喜びなどを、来ていただくみなさんに感じていただけるようにするのがこれからの課題です。



「万部おねり」の聖衆来迎会は、阿弥陀仏の願いを具体的に表現した儀式。二十五菩薩がそれぞれ手に法具や楽器を持ち、境内に設けられた来迎橋を渡って本堂まで練り歩く。本堂に到着した二十五菩薩による伝供式(写真右上)では、参拝者が皆手を合わせ、先祖供養を願う



観光は宗教との出会い。 大いなる心の安らぎを 提供していききたい



江戸時代初期に建造された山門。霊元天皇皇女、宝鏡寺宮徳庵尼の親筆「大源山」の勅額が掛かる。大阪府指定有形文化財でもある



本堂の大屋根に圧倒される境内。山門をくぐった先の境内は、すべての人がひとつになれる空間である。近隣住民が掃除や草むしりに訪れるなど、地域から大切にされている



江戸時代から始まった万部輿の渡御は昭和12(1937)年で途絶えてしまった。しかし、平成27年の御遠忌を控え平成23(2011)年に復活した



本尊の十一尊天得如来が納められている本堂は、1・5・9月に開催される「百万遍大数珠くり」で使われる大数珠が外陣を囲んでいる



融通念佛宗総本山
諸佛護念院大源山大念佛寺
〒547-0045
大阪府大阪市平野区平野上町 1-7-26
TEL：06-6791-0026
http://www.dainenbutsuji.com

お寺でも神社でも、人々の心を捉える大きなポイントとして境内や神域の厳かさがありますが、大念佛寺は素晴らしい庭園や国宝級の佛像など、目玉と呼べるようなものがあります。しかし訪れて、なんとなく楽しい場所、いいところだ、と思っただけの雰囲気を感じ出すことのできるはずですね。「心に土産を持つて帰ってもらう」ことですね。

文化財で人を呼ぶことはできなくとも、何かできることがあるのではないのでしょうか。

できない、できない、と言うだけでは怠慢です。寺社参拝の良さは、今自分が幸せの場に置かれていることを自覚できることにあります。自分の今の足元が一番の幸せの場であると感ずいたら、参拝していただいた甲斐があるというものです。だからこそ「観光」という手法を通して、心の気付きをみなさんに感じていただけることを、私個人としても宗派としても、考え、実践し続けていくことが肝要かと思えます。

観光寺社と聞くと軽く感じるかも知れませんが、これからの時代は「観光」が、人々に信仰の心を向けていただけるきっかけになるはずですね。

自分の中の光に気付く
それが宗教としての観光

——観光が信仰との出会いである、ということですね。そうなる宗教心が自然と芽生えてくる。

例えば当寺が参加している「なにわ七幸めぐり」では、諸芸上達者が当寺の御利益とされています。諸芸といっても、何も芸能・芸術ばかりではありません。自分自身の個性や人間性に目覚めていただくことも、広い意味での諸芸上達にあたると感じています。

人間は一人ひとりがかけがえのないものである、というのが仏の教えでもあります。ですから、自分にしかない光があるということに目覚めていただきたいです。せっかく参拝いただいたからには、自分の個性に気付く心を持っていただきたい。オンリーワンなんだ、ということですね。そのような気持ちに、観光するという行為を通して目覚めていただければと思います。その思いを胸に、「なにわ七幸めぐり」で参拝される方に僧侶が話したり、パンフレットをお渡ししたりもしていきたいと考えています。

宗教というものは、みなさんが心の中に持っているものです。宗教は英語で「religion」と訳されますが、これは「再結合」のことだと教わりました。まさにその通りだと思えます。我々は生まれたときは丸裸の純真無垢な心で、神仏と結びついているのです。それが成長するにしたがって我々が悩みが生まれ、神仏から離れていきます。

しかし大人になり、寺社へ足を向けていただくことで、もう一度神仏と結びつこうとできる。この行為が宗教との出会いだと感じています。私たちは、信仰は違えども最終的に大いなる心の安らぎを求めている

することは間違いありません。参拝を通じて、その安らぎを得ていただく、それが宗教です。お参りすることこそが自分の幸せでもあり、心を清くし、存在価値に目覚めていただくことにつながる。つまりこれが「再結合」であると思えます。

私たちはどこへ行くことも、必ず我が家に帰ってきますね。帰る場所があるということは幸せですし、帰る場所があるからこそ、旅先での時間を心の底から楽しめるのではないのでしょうか。帰る場所がないというのは、実に寂しいことです。そこに気付けば、人々の知識がどんどん膨らんでいく時代の中でも、知識だけでは到達できない世界をみていただくお手伝いを私たちができると感じています。そのうえで、観光で訪れた人に安心感を提供していきたいとも考えます。また、我が家のように「おかえり」と言ってくれるのが仏様、神様でもあります。このように思っていただけのようになれば、多くの人が寺社を訪れ宗教と「再結合」できるのではないのでしょうか。人を集めることだけを考える観光ではなく、ひとりでも多く寺社を訪れていただき、そこで何をもち帰ってもらいたいかを考える。この気持ちの醸成に努めていきたいですね。

新

NEW WIND

風

寺社に関わるさまざまな活動のなかには、寺社振興の新たな可能性を感じさせるものも多く生まれています。その中から今回は、子ども食堂、デジタル技術を活用した出開帳、クラウドファンディングのニュースをお届けします。



小さな子供の世話には、女性僧侶も大活躍。みんなで子供たちと触れ合っている

参加は子供だけでも、親子一緒でも可能。会場では僧侶が子供の相手をするため、親はゆったりとした時間を過ごせる

NEWS 1

お寺を子供たちの第3の居場所に 西本願寺・聞法会館で 「みんなの笑顔食堂」開始

■京都市にある浄土真宗本願寺派本山西本願寺の聞法会館で、放課後の子供たちの居場所をつくるための「みんなの笑顔食堂」が毎月開催されている。社会では今、子供の貧困が問題となっており、さまざまな悩みや苦しみを抱えた子供たちの居場所づくりが全国的に広がっている。本願寺派では子供食堂活動をすでに約50の寺院や団体で行っており、今回は、それら先駆的な活動をしている人たちに指導を受けながら立ち上げた。本山が企画した大きな理由は「人々の居場所であるお寺という存在を取り戻したい」ということ。そこには貧困の子供だけを対象とするのではなく、広く地域の子供や大人が集い、子供たちをみんなで育む場にした

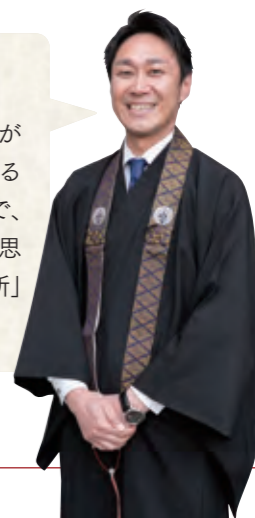
との思いがある。食堂は平成29年12月のプレオープンを経て、本年1月に本格的にオープン。夕食は地域の企業や門徒から提供された食材を使い、夕食前には楽しく過ごせる時間を設けると共に、2回目からは学習スペースも設置している。

参加した子供からは「みんなで食べるごはんはとてもおいしかった。また来たい」などの声が聞かれ、子供と一緒に参加した親の中には、楽しく過ごす子供の姿に安堵し、東の間の休息を得られたと言う人もいた。

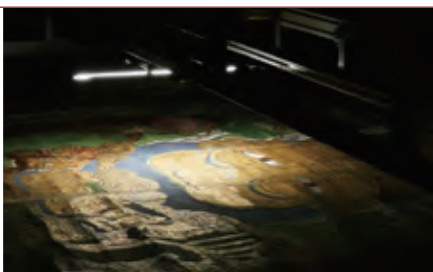
本事業は毎月開催する予定で、自習室に先生(本願寺派職員)を置いての学習指導や、地域のお年寄りにも参加してもらい、世代を超えた交流なども視野に入れている。

地域との連携で実現できています

本プロジェクトは、地域行政をはじめ関係各所との連携がうまくいったことで順調にスタートできました。回を重ねるごとに参加人数も毎回100人近くにまで増えていっていますので、場を提供する側として内容の深め方も考えていきたいと思っています。この活動がモデルケースとなり、「お寺が居場所」という子供たちが増えるといいですね。(上原 大信師)



浄土真宗本願寺派
重点プロジェクト推進室
〒600-8501
京都府京都市下京区
堀側通花屋町下ル
TEL：075-371-5181
(代表)



凸版印刷が培ってきた印刷テクノロジーにより、高精度というだけでなく、色彩も計測できたという

■真言宗豊山派総本山長谷寺が所蔵する「長谷寺式十一面観音菩薩三尊像(長谷寺大観音大画軸)」は、縦16.46m、横6.22mという日本最大級の掛軸。明応4(1495)年に作られた貴重な文化財だが、その大きさから寺外への持ち出しは難しかった。それが今回、文化財のデジタルアーカイブに取り組んでいる凸版印刷株式会社によってデジタルアーカイブ化され、寺外へ出せるようになった。



「大画軸」は広げると大広間を埋め尽くすほどのスケール。今回アーカイブ化したことで、原寸大での映像として出開帳が可能になった

計された。

3月13日には、総本山長谷寺や東京都の真言宗豊山派宗務所、北海道、沖縄県の計4会場で、アーカイブデータをもとに制作された映像コンテンツと法要を組み合わせたデジタル出開帳が実現。貴重な文化財の姿を最新技術で残していくだけでなく、新たな活用事例、また信仰を広める新たな手法として、アーカイブ化の可能性はまだまだ広がりそうだ。

NEWS 2

日本最大級の掛軸をデジタルアーカイブ化 「長谷寺大観音大画軸」の デジタル出開帳が実現

NEWS 3

「刀剣乱舞」人気が思わぬ効果を生んだ 文化財復元や神社復興に 寄附が集まる新たな動き

■アニメやゲーム作品をきっかけにした「聖地巡礼」現象が、神社に広がっている。大阪府東大阪市にある石切剣箭神社では、同社所蔵の重要美術品「太刀 石切丸」の復元刀を御祭神に奉納する「刀剣奉納プロジェクト」で、3月26日にクラウドファンディングを開始。すると目標額の1000万円を開始4時間で達成しただけでなく、募集終了まで1か月を残す段階で支援総額は4700万円を突破。プロジェクトには人気ゲーム「刀剣乱舞 -ONLINE-」の制作会社も協力、返礼品としてゲーム関連グッズが提供された。その効果もあってか、支援額はまだまだ伸びそうな勢いとなっている。

また京都府八幡市の相植神社は小規模な神社だが、平安時代の刀工・安綱が境内の井戸の水を使って名刀を打った地とされている。しかし本殿や社務所などが老朽化していたた

め、宮司やボランティアスタッフらで復興プロジェクトを立ち上げ、その一環で神社の由来などを紹介するホームページを公開。少しずつ参拝者が増え、さらに名刀の話がSNSで広まると、多くの刀剣ファンが訪れるようになった。復興プロジェクトのクラウドファンディングでは、目標額の74万円を5時間でクリア。最終的に400万円以上が支援金として集まる結果に。このような事例は、今後増えてくるとみられる。



「創建2677年 石切剣箭神社「刀剣奉納」プロジェクト」。太刀 石切丸は、刀剣乱舞 -ONLINE- で刀剣勇士となって登場していた

動

NEW WIND

静

政府や地方行政の取り組みなど、寺社に関わる情報を紹介します。今回は政府による観光戦略実行推進会議の報告と、栃木県小山市と神社が取り組む観光拠点整備の話題です。

NEWS 1

訪日外国人旅行者のための環境整備スピード化に向けて 観光戦略実行推進会議にて 「テラハク」が議題に

3月13日、首相官邸大会議室において第29回観光戦略実行推進会議が開催され、菅義偉官房長官、石井啓一国土交通大臣、柴山昌彦文部科学大臣、片山さつき地方創生担当大臣、田端浩観光庁長官、清野智日本政府観光局(NTO)理事長など多くの閣僚や各省庁の担当者参加のもと、観光庁が目指す2020年の外国人旅行者数4000万人達成へ向



菅官房長官や片山地方創生大臣からも、「テラハク」について言及いただきました

けた各省庁の施策について説明や報告があった。

会議では、環境整備を計画的かつ戦略的に進めること、そのために観光地、交通機関、文化財、国定公園、農泊の五テーマについては工程表を作成すると共に、環境整備についてスピード感を持って進めていくことを確認。また当協会関連団体である株式会社和空が招聘され、全国各地の宿坊に宿泊して深く日本文化に触れることができる「テラハク」について説明する機会が設けられた。これに対し田端観光庁長官からは、新たな観光のコンテンツ開拓の取り組みとして国としても積極的に支援し、事業者による先行事例を全国に横展開していくことが重要という発言があった。

NEWS 2

神社を舞台に観光コンテンツ開発 栃木県小山市が高椅神社から 「世界に誇る和食」を発信!

■栃木県小山市にある高椅神社は、日本における料理の始祖神である磐鹿六雁命が御祭神で、広く料理関係者に崇敬されてきた。境内には全国の調理師会会員による庖丁塚が造営され、秋季大祭では庖丁式も奉納されている。その高椅神社は昨年(平成30)、約100年ぶりに楼門を修繕し、今年5月25日にその完成お披露目を行うこととなり合わせて翌26日に「日本和食(日本料理)サミット2019 in 小山」を開催する。楼門特別見学会や「和」をテーマとしたステージイベント、トークショーや著名な調理師による自慢料理の実演と試食、和食の物販、「和食の祭典」ブース出展など、日本が世界に誇るべき伝統であり、世界からも注目されている和食を全



国に発信するさまざまな企画が用意される。
小山市は、ユネスコの無形文化遺産に登録されている本場結城紬やその原料となる蚕、蚕のエサとなる桑の生産といった日本の生活文化に関連の深い産業が盛んな地域。これらに高椅神社の庖丁式など和食の文化も加えることで、新たな地域活性化につなげたいと考えている。

小山市役所や教育委員会、高椅神社、商工会議所など地域が一体となって取り組んでいく

《日本の明日を寺社と共に。》

未来考創

寺社をテーマにした観光について
未来志向で取り組む人を訪ね、
日本の未来を共に考え、創造します。

第2回

社寺観光と東北復興

東北観光推進機構専務理事／紺野純一氏

東北の「奥深さ」を知って、訪れてもらう。そのために多方面の連携と支援、積極的な情報発信と仕組み作りで東北の価値を広めていきます。

廣瀬 東北は国内外からの観光需要が増していますが、今後の施策について考えをお聞かせください。

紺野 東北は春夏秋冬の自然が一番の魅力だと思われがちです。しかし社寺の歴史も古く、そこには地域と共に守り育ててきた伝統や文化も残っています。もちろん、海外の富裕層にしっかりと訴求できるポテンシャルもあります。出羽三山と呼ばれる東北を代表する山が山形県にあり、羽黒山には素晴らしい宿坊、下北半島には恐山のイタコ文化もあります。このように東北各地には信仰を出発点とする精神的な価値が各所に残っているのですが、国内外にまだそれほど知られていません。だからこそ今後は東北の大きな魅力として社寺にまつわる情報を発信し、形にしたいですし、そこに大きな意義があると考えています。もちろんさまざまな支援も活用しながら、各地の魅力を掘り起こし、東北の価値を

広めていくことも必要です。
廣瀬 社寺を軸にした東北観光ということですね。大変魅力的です。

紺野 例えば福島県には、法相宗の徳一大師が磐梯町に仏教の一大拠点を築いた歴史があり、ここはかつて東北における仏教の中心地でした。岩手県平泉市では奥州藤原氏が築いた長く平和な時代の跡を見ることが出来ます。これらの地域を観光しながら社寺を巡る。とにかく多くの魅力的な社寺がありますから、再訪して巡っていただく。これができれば、息の長い観光施策となるのではないのでしょうか。そのために東北の奥深さをどのように連携しながら見せ、発信するのか、母体としてはどのような仕組みが好ましいのかを考えていくのがこれからの課題ですね。東北6県はそれぞれ人の営みも違います。加えて各地域で、社寺はコミュニティの中心として今でも大切にされています。東北は広い。だからこ



聞き手／廣瀬崇之
一般社団法人全日本
社寺観光連盟理事。元
内閣府特命担当大臣
秘書官、文化観光リサ
ー株式会社代表

そ語り尽くせないし発信し尽くせないのですが、機会を見ながら発信していかないとダメです。東北のスピリットに触れていただくことは、多くの人々の心を揺り動かすはず。東北の魂ですね。そこに観光が触れていくことで、地域もまた元気がなっていく気がします。
紺野 東北の人々は、子供の頃から地元の社寺を誇りに思っていて育つています。だから海外の方などが各地の社寺に来てもらうことが地元のプライドになり、若い世代が魅力を再認識するきっかけにもなります。これまでの観光施策では、新しいものを取り上げがちでした。しかし今こそ原点に戻り、社寺文化のように各地で連続と受け継がれてきたものに着目しなければなりません。今後は東北の新たな観光の魅力として社寺振興にも力を入れ、それを地域の振興へつなげていく。それがこれからの東北振興のひとつの形となるのではないのでしょうか。



紺野純一／東日本旅客鉄道(株)で主に国内・海外旅行および観光業務に従事したのち、仙台駅長、仙台ターミナルビル(株)専務取締役総支配人を経て、平成27(2015)年より現職。東北の観光産業振興と経済の発展のために貢献している

明治時代には公的機関が
寺院内でビール醸造を!?



明治3(1870)年、京都の産業振興を目的に京都舎密局が設立され、工業化学の研究が行われた。事業のひとつにビール醸造があり、明治10(1877)年、清水寺境内で前年に湧いた清水を利用したビールを醸造するため、音羽の滝の西側に京都舎密局麦酒醸造所を建設(写真上)。以後4年間ビール醸造が行われていた。醸造所ができた同年、京都に行幸した明治天皇に、ここで醸造された「扇印麦酒」と名付けられたビールが献上された記録もある。寺社の湧水は良質な地下水として、日本酒と同じようにビール醸造にも適していたようだ。

写真/京都府立京都学・歴史館 京の記憶アーカイブ



**日本人の暮らしと風土と
切っても切れない酒**

近年は数十年ぶりの日本酒ブーム。インターネットで全国各地の情報が発信されるなか、地域の酒や関連情報が世界へも発信されるようになってきた。各地の酒類関連イベントはいずれも盛況、日本酒は外国人旅行者にも好まれ、イベントを目当てに地方を訪れる外国人旅行者も増えている。また平成15(2003)年の酒造法改正以降、地ビールが各地で醸造されるようになり、地域の名産として根付いている。今や酒は、外国人にとっても日本を楽しむ重要なコンテンツとなっている。

日本における酒の歴史は、古代祭祀での捧げ物や御神酒にルーツが見られる。神社では古来、収穫した米で濁酒を製造し、神に捧げてきた。平安時代の延喜式には大嘗祭での古代日本酒の記述があるほか、神前に酒を供える風習は現在も続いており、また全国40近い神社では祭祀用に酒造免許を有している。一方、室町時代には数カ所の寺院で僧坊酒が醸造されるようになり、貴族や庶民に人気だった。現在の清酒醸造は

奈良県にある菩提山真言宗大本山正暦寺で室町時代に確立された製法がもとになっており、ゆえに正暦寺は日本清酒発祥の地と言われている。ちなみに日本でのビール造りは明治2(1869)年に横浜で始まったが、明治22(1889)年には、大阪府吹田市の泉殿宮に湧いていた霊泉の水をドイツに送り、ビール醸造に最適との確証を得たため隣接地に東洋初のビール醸造工場(現アサヒビール吹田工場)を建設し、同水系の水でビールを醸造したとの逸話もある。

日本では神社と酒と人々が深い関係で結ばれており、酒と共に四季や行事に触れることが連綿と続いてきた。酒は神社や地域と深く関わる文化である。ならばその歴史も踏まえ、広く発信することでより多くの参拝者呼び込むこともできそうだ。評判が共感を生む現代、オリジナリティのある取り組みは広まりやすい。事実、酒をきっかけに賑わいを取り戻し、また生み出している神社もある。加えて、新たに酒造りを始める所も出てきた。酒との関わりの活用は、神社振興にどんな効果を生むのか。4つの事例から考えてみたい。

寺社と酒との関係に、注目が集まり始めている。寺社で開催される日本酒やビールのイベントは年齢問わず大盛況、ビールやワインを醸造している寺は、アクセスが不便でも参拝者が増えている。酒との関わりを積極的に発信することは、寺社のにぎわいにつながるかもしれない。

特集

伝統の継承と
寺社振興を兼ねた
取り組みに注目!

酒で地域と寺社活性。

事例 1
白鬚田原神社
大分県

大学と共に取り組み、つなぐ 伝統のどぶろく造り



しらひげたわらじんじゃ
白鬚田原神社
〒879-0902
大分県杵築市大田沓掛1693
TEL:0978-52-2144 (宮司宅)

毎年9月25日の「醸造始の儀」が、どぶろく祭りの始まりの儀式。氏子さんが持ち寄った米を加えた原料米に麴を混ぜていく。別府大学の学生たちも儀式に参加し、「どぶろく造りに携るのが楽しい、役に立てることが嬉しい」そう



五穀豊穡や健康長寿のご利益で知られる「どぶろく祭り」。県外から10年以上毎年通うという参拝者がいるなど、熱心なファンも多い

醸造所を持つ神社に 学生たちがやってきた

大分県杵築市の山間部にある大田地区では年に2日間だけ、この静かな里に全国から約2万人もが集う。それが白鬚田原神社の「どぶろく祭り」。毎年10月17日、18日の大祭に、氏子衆によって仕込まれたどぶろくが神に捧げられ、参拝者にも無料で振る舞われる。特段酒造りの盛んな土地柄というわけではない。昔は周辺にある複数の神社でもどぶろく造りが行われていたのだが、今ではこの白鬚田原神社だけにどぶろく造りが神事として残る。ちなみに同社は、九州の

神社で唯一、酒の醸造が許可されており、これも創建から1300年以上、一度も絶えることなく神事が行われてきたからにはかならない。そんな同社に転機が訪れたのが平成29(2017)年。県内にある別府大学の学生たちと、どぶろく造りを行うことになった。

継続をするために 変える事、変えない事

大学には全国的にも珍しい「食品発酵科」があり、神社で行われる伝統的な酒造りを学生たちに学ばせたいと打診があったという。「神事はすべて氏子が行うのが基本。しかし氏子の高齢化が進み、神事を

担うマンパワーが乏しくなっていました。祭りを継続させるために、大学の申し出はありがたかったと語るのは、河野真二宮司と、氏子会長の田邊敬さん。約1000kgの米から約2000ℓのどぶろくができる過程で、学生たちには体力的にも大いに助けられた。また、持ち帰り用の酒瓶に社名を印字するにあたって、コスト面で先生からアイデアが提案されたり、神輿を担いで祭りに参加したいという学生も現れた。当初は「学生に怪我をさせてはいけない」と気を遣っていたが、今では過剰な気遣いは不要。酒を造って、一緒に飲むという経験を神社と氏子、学生が一緒にすることが、温かい関係を育んでいる。

伝統の祭りに外部の手を借りることも新たな試みではあったが、この機に合わせ、氏子が担う数多くの役割を時代に合わせて見直すことになった。「昔から続く慣習という縛りによって、今できなくなっていることがあるならば、思い切って見直すことも必要。たとえ規模が縮小したとしても、祭りを続けていくことが最優先です」と河野宮司。ただし、神事をすべて氏子で行うという基本は絶対にブレない。この秋も、氏子が自らの田で育てた新米を使い、氏子が代々受け継ぐ杜氏職の技によって、どぶろくが生まれる。そしてその周りを、地域と人々の絆が生んだ連携が支えていく。

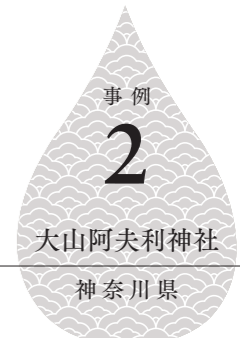
河野真二宮司(写真左)と氏子会長の田邊敬さん(写真右)。社殿の右奥には、どぶろく造りのための醸造所や酒蔵がある



毎年10月1日の「掛添えの儀」が終われば、8日に口開式と酒精検査(写真上)、関係者が川で穢れを祓う潔斎式(下)、潮汲みといった多くの段階を経て、大祭の日を迎える



大祭は17日が前夜祭、18日が神幸祭。神社の前にはさまざまな店も出て、県内外から多くの人々が訪れる。「どぶろく祭り」では、鬚自慢コンクールも毎年好評



先人たちの意志を引き継ぎ 利酒会で交流を生み出す

「地域を盛り上げたい」
宮司と酒造組合の想い

大山阿夫利神社は、奈良時代以降神仏習合の霊山として栄え、源頼朝や徳川家など歴代の将軍にも信奉されてきた。江戸時代に入ると庶民からの崇敬も高まり、人々が「講」を形成して大山詣をするように。

「江戸時代の隆盛の大きな理由に、『御師』の存在がありました。大山に登る途中の旅館はすべて宿坊で、かつては各宿主が御師として布教に勤しんでいたんです。私の家ももとは宿坊。大山の御師たちは先人の意志を継ぎ、現在は先導師という名称のもと活動しています」

目黒久仁彦権禰宜によれば、先導師としての仕事のひとつが、毎年5月に行われる酒祭奉賛会だとい

う。御祭神である大山祇大神は別名「酒解神」とも呼ばれ、酒造の祖神として全国の関係者から信奉されてきた。「東京に出る人が増え、講が減っていくなか、先々代の宮司と酒造組合の方々が、地域を盛り上げるため昭和27年に酒祭を開催したのが始まりです。関東一円の酒蔵に神職が出てお酒の奉納をお願いし、奉納のお礼として醸造の安全祈願をさせていただく。その後、お酒を一般の人々に無料で振る舞うことでおしさを皆さんにお伝えすると共に、大

「考えたのです」。酒祭奉賛会では第3日曜日に醸造安全祈願と醸造関係者向けの利酒会、第4日曜日に下社で一般参加者向けの利酒会が行われる。それが近年、大盛況。

**神社に人を集めたい。
そのための取り組み**

今年で69回目を迎える酒祭奉賛会および利酒会は、鉄道会社が積極的

もいらつしゃって、酒蔵の方と直接ビジネスの話に発展したケースもあるようです。イベントを通して神社と参加者の間につながりができるといっただけでなく、参加者同士の交流の場にもなっていることに大きな意義を感じると目黒氏。

この成功をきっかけに同社は今、神職が直接人々と触れ合う機会を増やしており、時にはバスツアーの参加者を権禰宜自ら案内することもある。「大山だけを考えるのではなく、ここをひとつの媒体として捉え、さまざまなコラボレーションを実現していきたいですね。それをきっかけに大山に足を運び、信仰に触れる機会を増やしたいと考えています」

神職が訪ね歩いた関東一円の蔵から、毎年200種類以上の酒が奉納される。醸造安全祈願祭のち、それらの酒が利酒会で振る舞われる



毎年5月の第3日曜日に開催される醸造安全祈願祭。この数週間前に8名の神職が1人あたり30軒程度、4日をかけて先導師として関東一円の酒蔵をまわり、酒の奉納をお願いする

広報も務める目黒久仁彦権禰宜。同社と同名のラーメン店とのコラボイベントを実現するなど、精力的に活動している



ケーブルカーの駅からすぐの下社(写真上)。ここから上り1時間半、下り1時間をかけて山頂の本社(下)に向かう。利酒会の日には本社参拝を断念する人も



ミシュラン・グリーンガイド2つ星を獲得した眺望を持つ大山阿夫利神社。その眺望を生かして、現在境内にカフェもオープン



おおよまふりじんじや
大山阿夫利神社
〒259-1107
神奈川県伊勢原市大山355
TEL : 0463-95-2006
http://www.afuri.or.jp



寺を続けていくためと考えた 事業が寺の認知拡大に



浄土宗
ばいこうさん すうとくじ
梅香山 崇徳寺
〒039-4602
青森県下北郡大間町奥戸93
TEL：0175-37-3342

まんじむしずく
商品名は「卍麦雫」。ビールはラガーとピルスナー、発泡酒にはスタウト、ピター、ペールエールに加え、青森らしいアップルもある



住職の佐々木真萌さん。「バイコードリンク B・S 崇徳寺」名義で、単身醸造をしている

今ある資源+αで 新たな収益を考えた

マグロで知られる青森県大間町が今、地ビールで密かに人気だ。きっかけは、同町にある寛永2(1625)年開山の崇徳寺で、22代目の佐々木真萌住職が平成15(2003)年から始めた地ビールの醸造。全国的な問題となっている過疎化は大間町も例外ではない。崇徳寺でも、年々寺を訪れる人が減ってきたが、120軒以上ある檀家のために寺の運営は続けていく必要があった。この状況に何も手を打たずにいたら、いつか立ちゆかなくなるのではないか、そう考え、副業を決意。

とはいうものの、寺を空けてまで副業はできない。幸い境内には、開山以前から恐山を源流とする湧水があった。副業を思い立った時、まずはそれでミネラルウォーターを製造することにした。しかし販売を始めた時期は大手飲料メーカーからも続々とミネラルウォーターが発売された時期でもあり、とてもじゃないが、太刀打ちできないと、ミネラルウォーターはすぐに中止。しかし境内には機械と建物が残っている。これをどうにか活用できないか。そんな時、全国で地ビールを醸造する動きがあることを知り、平成13年に発泡酒の醸造免許を取得して翌年から販売を開始。さらに翌年、酒造法

の改正で小規模でも地ビールの醸造が可能になったことを受け、地ビールの製造にも乗り出した。「大量生産するつもりは最初からありません。お寺の維持管理に必要なコストを、ビールの醸造を通して得るだけです」。現在も製造量は増やしていないが、お寺発のビールが評判を呼び、訪れる人が増えてきた。

設備を持ったことで 新たな道も開けた

「キリスト教では、トラピスト系の修道院が昔からビールを醸造し、運営費に充てていることは有名な話。現在の事業はそれとまるで同じ考え方です。結果的に評判が広がってき

ていますが、今後も運営にかかる費用が工面できれば、それ以上醸造する予定はありません」とはいうものの、醸造設備を持つていることは、地域にとってもありがたいことだったようで、数年前から委託醸造の依頼も来るようになった。収入が安定してきたことで、新たなチャレンジも始められるようになった。昨年からはワインの醸造も開始し、インターネット大手の楽天にショップも開設。今後はビールやワインの質をもっと高め、寺院運営費の確保体制を盤石なものにしていきたい考えだ。それもこれも寺の将来のため、何より、檀家のため。気持ちが良いことだが、何よりの強みとなる。



境内には直売所と、不在時でも購入してもらえるよう自動販売機も設置(写真上)。フルーティなワイン「卍ワイン silent snow」(左)もこれから力を入れていくそう



お寺でビールという組み合わせがメディアの目にも留まり、新聞などで紹介されるようになってきた(写真は共同通信社が配信したもの)



行基が広めた甲州ぶどう ワイン造りで地域とつながる



真言宗智山派
ぶどう寺
柏尾山大善寺
〒409-1316
山梨県甲州市勝沼町
勝沼 3559
TEL: 0553-44-0027
http://katsunuma.
ne.jp/~daizenji

ぶどう寺の誕生 仏教とぶどうの深い関係

平成28年に大ヒットしたドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」(出演・新垣結衣ほか)にも登場し、全国的に知られるようになった大善寺。話題となった「和尚さんのワイン」ことぶどう寺自家製ワインは、昭和28(1953)年より住職と檀家が自分たちのために造ってきたもの。

「当寺は奈良時代、行基によって開山されました。甲斐国に入った行基は、渓谷の大石の上で修行していた際、ぶどうを手を持った薬師如来を見た。それが寺院草創のきっかけとされています」と井上哲秀住職。そ

もそも、仏教とぶどうは深い関わりがある。今日のぶどうの原種とされるヨーロッパ系のヴィティス・ヴィニフェラ種は、コーカサス地方に出

現。シルクロードを通って世界各地に広がり、日本の九州地方や奈良にも、中国の僧侶によって伝播。その後行基が奈良で習得したぶどうの栽培をこの地で広めたことが、甲州ぶ

どうの始まりとも言われている。その後大善寺は農地開拓を行い、戦後の農地解放まで、所有するぶどう畑の多くを小作農に貸していたという。戦後、甲州ぶどうはとても高価なものでした。だから一生懸命作ったけど、どうしても傷モノは出る。そこで売り物にならないものは酒に

してみようと試みたのです」

住職と檀家で会社を設立 柏和葡萄酒のワイン

先代の住職は、ぶどうを栽培する40軒あまりの檀家とともに、柏和葡萄酒株式会社を設立。毎年株主(檀家)が自園で作ったぶどうを持ち寄り、住職をはじめとする役員がワインを醸造し、3月に蔵出しする。完成したワインはそれぞれが持ち寄ったキロ数に応じて分配、持ち帰ることができるとシステムだ。井上住職は

先代から柏和葡萄酒社も引き継ぎ、代表を務めている。「あくまで素人が作るワインですから、澱が残ってしまったりして、決して良いワインと

いうわけではないんです。それでも、自分たちで造ったワインは格別で、最初は自分の持ち帰り分を寺の民宿の宿泊者にサービスで振舞っていたんですよ。そのうち、お土産に欲しいと言ってくれる方がいたので、販売もするようになりました。ここ数年は、10月頃には売り切れてしまうほどで、驚いています」

ワイン造りを通して築いた地域の人たちとの絆は、檀家の増加にも表れている。「もちろん、お寺を守るためということもありますが、私も地域住民のひとりとして、みなさんと一緒に働くことが楽しいんです」。一緒に汗を流すことが、お寺と地域の人との信頼構築へとつながっている。

参拝後、ワインやぶどうジュースの試飲ができる「グラスワイン拝観」「ぶどうジュース拝観」(それぞれ800円/通常の拝観券は500円)



山門周辺にはブドウ畑が広がっている。



お土産には、赤ワイン、白ワイン、ぶどうジュースの購入が可能。ワインは720mlボトルの場合1本1500円、一升瓶なら3000円。ジュースは800円

大善寺のご尊像である、ぶどうを持つ薬師如来。特別な時期にのみ、ご開帳されている



一泊二食付き6500円で、寺の所有地内に設けられた民宿に宿泊することも可能。住職の奥様が手料理を振舞ってくれる



戦後の農地解放後、住職自らぶどうの栽培を行っている。繁忙期には農作業と袈裟を着替えながら、畑と寺を行ったり来たりするそう

文化や伝統を未来へつなぎ、寺社を活性化させている人や活動。2つの事例を紹介します。

No. I

さまざまな世代に「仏教」を伝え、地域とのつながりでも新たな互助関係を生む



坊主道の活動に賛同した地元のデザイン会社「株式会社マニュアルズ」がWEBサイトのデザインと管理を提供。それをきっかけに同社には、サイトを見た寺からHP制作の依頼が届いているという

子供からお年寄りまで苦しみ人に寄り添う活動を

「坊主道とは仏教を伝え、これからの寺や僧侶のあり方を考えるために集まった、山梨県にある超宗派僧侶団体です(「坊主道」HPより) 日蓮宗妙性寺の住職、近藤玄純さんが代表を務める坊主道は、その宣言通り浄土宗、臨済宗、曹洞宗といった、県内にあるさまざまな宗派の寺院から僧侶たちが集まって活動を行っている。子供たちと共に寺で食事をする「寺GO飯」や、地元行政書士チーム「よすがびと」と共催し、終活について学ぶ「ゆくすえ茶話会」。それら活動の報告や、地域の僧侶たちの活動などを紹介する

WEBサイト「お寺のじかん」も運営するなど、活動は多岐に渡る。「仏道修行として活動し、人が集まり持ち寄り場所」を本堂と見立て、そこをハブにさまざまな世代に寄り添う活動をしたいと考えています。そして地域の人たちとつながり、大きな寺院とその参道の人々のような互助関係を新たな形で築いていきたい」

檀家と寺の関係はあくまで共益。その先の公益を考えた活動をする。僧侶ができる「布施」になるだろうと近藤さん。「活動自体で収益を得ることは考えていません。我々僧侶が社会に参画する場を作り、参加してくれた地域の皆さんが寺や仏教を身近に感じてくれたなら、それが存在意義につながるのではないだろうか」

No. 2

職人が減少してもチームを組んで品質と技術を次世代へつなぐ



谷口松雄堂が得意とするのは和紙に漆を施したもの(左)。ほかにも近年は要望に応じて多様なデザインを手がけている

技術を継承する職人が高齢化する中で出した結論

京都市南区にある谷口松雄堂は、大正15(1926)年創業、和紙工芸品や表具を主に製造していたが、昭和34(1959)年あたりから御朱印帳を手がけるようになり、今年年間20万冊以上を製造する大手である。御朱印帳は細やかな作業が必要のため、これまで職人が手作業で制作してきたのだが、長年共にやってきた職人が高齢化、加えて次世代を担うべき職人もいないという問題に直面した。「伝統産業の多くが同じ問題を抱えている、これは仕方ないことです。しかし依頼は増えるばかり。そこで、品質を落とさずみなさまのご要望に応えられる方法を考えました」と語るのは4代目の谷口主嘉さん。近年の御朱印ブームで、この10年ほど受注数は年々増加傾向にあり、リクエストも多様化してきた。そこで、中国に開設した工場で中面を折り加工、完成品を日本の本社工場に送って表紙を手作業で貼る方法へ移行。品質を保つために日本の社員が毎月中国に向き、細かくチェックする体制も整えた。

「チームで伝統を継承していく、それが私たちの出した答えです」

特別仕様や急ぎの案件が入った場合は本社工場での別のチームが担当。形を変えながら技術を継承する、それが寺社の伝統を次代へとつなぐ一助となり続けている。

御朱印帳製造の技術を守る、谷口松雄堂の谷口主嘉さん



谷口さんも中国へ足繁く通い、品質の確認や技術的な問題の解決などを現地の担当者と話している



和紙に塗る糊の量、スピード、正確な位置に貼る技術。それらは経験がないとできない



一枚の長い和紙を均等に折り畳むにも熟練の技術が必要。中国の工場では指導の甲斐あって、高品質の仕上がりを実現できている

【谷口松雄堂】

〒601-8433 京都府京都市南区九条東柳ノ内町58 TEL: 075-661-3141 <https://www.taniguchi.co.jp>

宗派を超えて仏教・僧侶のあり方を考える、妙性寺・近藤玄純さん



浄土真宗本願寺派光明寺僧侶・松本紹圭さんが主催した「未来の坊主塾」の卒業生でもある近藤さん。そこで、宗派を超えて寺のあり方、僧侶のあり方を考えた体験が今の活動につながっている



坊主道の主要メンバー。近藤さんが直接呼びかけて集まった、山梨の有志たちだ



地域の大学生や女性たちと共に、子供たちに食事を振る舞いながら仏教について話をする「寺GO飯」を実施している

【超宗派佛教徒 坊主道】

<http://www.bozudo.com>

大天狗面

【だいてんぐめん】



日本一と言われる「大天狗面」(左)は、顔の丈が6.5m、鼻の高さが2.8m。横に並ぶ「交通安全身代わり大天狗」(右)は顔の丈が5.5m、鼻の高さが2.7mある。2つの面は中峰堂に安置されている

**戦勝、交通安全、諸願成就
天狗に託される願い**

群馬県沼田市、迦葉山の中腹に鎮座する通称・弥勒寺は、高尾山薬王院、鞍馬寺と共に「日本三大天狗」と呼ばれる寺。弥勒寺は嘉祥元(848)年に天台宗の寺院として創建された。その後、康正2(1456)年に曹洞宗に改宗。お天狗さんをお守りするようになったのはその頃からです(弥勒護国禅寺僧侶)。

弥勒寺の中興の祖、天巽慶順(てんげんけいじゆん)禪師の隨身・中峰(ちゆうけう)が、禪師の没後に衆生のための抜苦与楽を請願して昇天すると、そのあとに天狗の面が残されていたという。以後同寺の天狗信仰



開運を祈願して借りて帰る天狗のお借り面。帰宅後は、神棚や仏壇に祭り、ご利益を得る。中峰堂にはお礼参りのお返し面も溢れている

は始まった。

「日本一の大天狗面は地域の商工会の有志により、戦勝を祈願して昭和14(1939)年に作られました。その後、昭和46(1971)年には交通安全を祈願して「交通安全身代わり大天狗」が作られ、二面の大きな面が安置されたのです。」

地域の人々から、その時々願いを託されてきた大天狗面。願いは現代にもつながっている。

「弥勒寺には参拝に訪れた人がお面を借りて帰り、翌年参道で新しい面を買ってお礼参りに来るならわしがあります。その面は地域の人たちが作り、納めてくださっているもの。面を借りて帰った方のほとんどが翌年にお礼参りにみえます」

8月の沼田まつりでは、天狗面を神輿として担ぎ、地域の発展を祈願する。お天狗様は600年近くに渡って人々に寄り添い続けている。



拜殿の左手にある坐禅堂には、毎年8月に行われる沼田まつりに担ぎ出される「諸願成就大天狗」が安置されている



かしょうざんりゅうげいん 迦葉山龍華院 弥勒護国禅寺 千 378-0071 群馬県沼田市上発知町445 TEL : 0278-23-9500

神釜と塩づくり



境内奥にある神釜と同じ形の平釜で藻塩焼神事が行われる。神釜のものと同じ海水を薪で炊き、数時間かけて塩をつくる

**釜の水が濁っているのは
町が穏やかな証**

陸奥国一之宮として奈良時代以前より現在の地に鎮座する鹽竈神社は、「しおがまさま」と呼ばれ塩竈市民に親しまれている。広大な鎮守の森を有する9万坪以上の敷地では四季折々の花が訪れる人を楽しませてくれるが、隣接する町内にある末社の御釜神社も、同じく市民から大切にされている場所。境内に奉安されている「四口の神釜」には松島湾内からくみ上げた海水が張られているが、この水、江戸時代より吉凶にかかわらず、世に異変が起こる前には決まって釜の水が澄んだと伝わる。中には釜守がおり、水が澄むと仙台城へ急ぎ報告に上がっ



広大な公園のような鹽竈神社は塩竈市中心部の高台にあり、平安時代に源融が歌に詠んだ景色が今も人々を和ませる

ていた。平成23(2011)年の東日本大震災の際も、当日の朝に神釜の水が、かつてないほど澄んだ。

逸話がずっと語り継がれるほど市民の心の支えとなっている神釜。その境内では毎年7月4日から6日にかけて「藻塩焼神事」が行われる。初日は神職が湾内に神事船を出して海藻を刈り取り、翌日は神職が松島釜ヶ淵から満潮時の海水を汲み、神釜の水を入れ替える水替神事。そして最終日には全国から集まった塩業関係者が見守るなか、古代の製塩法そのままに塩が作られ、できた塩は御釜神社と7月10日の鹽竈神社例祭に供えられるほか、少量ながら参拝者にも頒布される。また氏子はこの塩を家内安全の依代として持ち帰り、大切に祀るそう。

長い歴史の中で受け継がれてきた行事と塩、神釜の伝承。人々を守り、また人々から守られ、街が日々穏やかであるために、これからもある。



海藻を用いて高濃度の塩水を作り、それを煮詰めて塩を作る製塩方法を伝える神事。宮城県の無形民俗文化財に認定されている

御釜神社

千 985-0052
宮城県塩竈市本町 6-1
TEL : 022-367-1611
(鹽竈神社)

世界中で
大きなうねりが
起きている



LGBT ツーリズムを 寺社振興に つなげる

新たなエンターテインメントや観光スポットが世界中で続々と誕生し、日本におけるインバウンドと同じように、「観光」をテーマに各国でさまざまな施策が実行され、世界は人の大移動時代に入った。そうした中でいま注目されているのが「LGBT（性的少数者＝セクシャルマイノリティ）」の人々の動向。多様性を認める世の中の象徴とも言うべき「LGBT」は、実は寺社観光の今後と、密接にかかわっている。

観光施策を考えるうえで LGBTは最注目の存在

レズビアン（L・女性同性愛者）、ゲイ（G・男性同性愛者）、バイセクシュアル（B・両性愛者）、トランスジェンダー（T・性同一性障害者など）の頭文字を取り、性的少数者（セクシャルマイノリティ）の総称として使われているLGBT。雇用や社会保障など生活環境のいろいろな面で課題として取り組まれているが、今回は旅行分野に着目したい。

近年LGBTツーリズムという言葉が聞かれるようになった。文字通りLGBTの人たちを対象にした観光施策のことだが、平成12（2000）年に観光関連やホスピタリティを学ぶ学校であるアメリカのトラベル・ユニバーシティが発表したレポートによると、国際旅行者に占めるゲイ・レズビアンだけの割合は約7000万人（全体の10%）、またLGBTツーリズムの市場規模はオランダのアウト・ナウ・コンサルティング社による平成26（2014）年の調査で2020億ドル（1ドル

100円換算で約20兆円）と出ている。なぜこれほどの市場規模かというと、LGBTの旅行者は比較的可処分所得が高く、そのため旅行回数も多く、また気に入った場所に再訪する傾向があるとされるからだ。ほかに、SNSの更新頻度が高いといった特徴もあり、その消費行動に世界の観光産業が注目している。

世界各地の航空会社がLGBTに優しいというスタンスを示していることもその一例で、アメリカン航空など日本に乗り入れている欧米の航空会社ではすでに、LGBT専用WEBサイトを開設したり、関連イベントに協賛する動きが出ている。

日本でもLGBT対象の 観光施策が動き出している

世界ではこのように活況となってきたものの、日本はどうだろうか。平成27（2015）年に観光庁および政府観光局がニューヨークで開催した日本の魅力を発信するイベント「JAPAN WEEK 2015」内で、日本に興味のある海外のカップルを日本へ招待するイベントが



あり、その最終選考に選ばれた3組のうち1組がレズビアンカップルだった。また復興庁による平成30（2018）年度「新しい東北」交流拡大モデル事業のひとつには「目指せ！ダイバーシティ東北【LGBTツーリズム】」が選定された。さらに全国各地で、行政主催によるLGBTツーリズムの講演なども開催されている。もはや日本も、LGBTツーリズムに向けて大きく舵を切っていると言える。

LGBT旅行者の特徴・傾向

- 1 Facebook、InstagramなどSNSへの投稿**
自分自身の旅行体験記・写真を頻繁に更新する傾向が強い
- 2 愛着心が強い**
気に入った場所に何度も行く傾向が強い
- 3 サービスへの厳しい目**
サービス面には厳しいが、一度獲得できれば、リピーターにもなりえる。LGBTが納得するサービスを提供できれば、どのお客様にも喜んでいただけるはず。

も登場、各地でLGBTイベントも開催されるようになってきた。

プライドパレードという

世界的な観光施策が人気に

さて、観光地でのLGBTイベントを考える時、世界各国で開催され、日本にも平成12年から導入されている「東京レインボー祭り」に見られるような「プライドパレード」はもつとも注目すべき施策だろう。LGBTの人たちがレインボーフラッグなどを持ちにぎやかに練り歩くパレードのことを「プライドパレード」と呼ぶが、ニューヨークのパレード



全国9自治体で同性パートナーシップ証明制度が始まったことを機に、同性婚を希望するケースも増えてきている

は200万人を動員し、経済効果は200億円とも言われ、サンパウロではなんと400万人も動員した(下図参照)。

このように世界各国で毎年多くのLGBT旅行者を集めることに成功し、どこも100億円以上の経済効果を上げている。その状況に呼応して日本でも東京や大阪、名古屋、福岡ですでに開催され、ここでも億単位の経済効果があったようだ。これらのパレードには海外のLGBT旅行者も数多く参加するようになっており、彼らはイベント後に国内観光地を訪れ、消費行動を積極的にしている。

寺社観光に魅力を感じるLGBT旅行者が増加

イベントと絡めてだけではない。LGBTの人々はスピリチュアルなものや場所に興味を持つ傾向があるとも言われ、しかも日本の寺社に興味があるという。特に近年では、寺社での結婚式を目的に来日する人も増えているようだ。その一因として、平成26(2014)年に京都にある臨濟宗妙心寺派大本山妙心寺の塔頭寺院である春光院が同性同士

の結婚式を受け入れたことが、アメリカのオンラインメディア「ハフポスト」で紹介されたことが挙げられるだろう。春光院の川上全龍副住職によると、特別にLGBTを意識しているわけではないが、挙式を相談された方がたまたま当事者だっただけだそうだが、以来LGBTの外国人旅行者の中には日本の寺社で挙式をと考えて来日する人も出てきているよう。国内の当事者間でも同様の動きが見られ、プライダル企業と提携している寺社の中には、毎年何件かの問い合わせを受けているところも複数あった。中には挙式という形ではまだ対応できないが、それに似た形で「祈祷」として受け入れている神社もあり、すべての人を受け入れるという寺社の考え方が、国内外のLGBT当事者に、関心を持たれているようだ。

しかし、挙式の可否にかかわらずLGBTの人々はどう向き合うべきか悩んでいる寺社はまだ多いように見受けられる。近年は寺社においてLGBTについて考える勉強会が多数開催されており、対応についてさまざまな意見が出ている。ここで考えておきたいのが、LGBT旅行者

が訪問先を選ぶ基準のひとつに「LGBTフレンドリー」かどうかがあることだろう。

LGBTフレンドリーは寺社本来の姿

「LGBTフレンドリー」とは、簡潔に言うと相手がどのような人かにかかわらず友好的であることとなるが、これこそ寺社にもともとある魅力ではないだろうか。寺社は「だれもが過ごしやすい場所」であり、つまり文化財や体験などの情報だけでなく、過ごしやすい場所としての魅力を発信していけば、自ずとLGBTフレンドリーになっていく。先述したように、LGBT旅行者には気に入った場所を再訪する、SNSの更新頻度が高いといった傾向が見られる。つまりLGBT旅行者は、気に入った場所の良さを寺社に代わって発信してくれる存在と言え換えることもできる。

例えば国内のホテルでは、LGBTフレンドリーをアピールするため社内研修を行い、さまざまな施策を打ち出しているところもある。ホ

寺社はすべての人が 過ごしやすい場所。 その魅力を発信する

テルグランヴィア京都では、トランジェンダーの旅行者が利用しやすいようにフロント近くに男女共用トイレを設けたり、同性カップルが宿泊する際には客室のテーブルの上にレインボーの折り鶴を飾るといったことに取り組んでいるが、これがLGBT旅行者の間で評判となり、広まっている。

情報を発信して寺社の存在を知ってもらい、より多く訪れてもらえるようになることが、これからの寺社振興には不可欠。そのためにどんな魅力があるのかを把握し、またLGBTの人たちに喜んでもらえるちょっとした工夫をしてみるだけでも、その情報がLGBT当事者を中心に拡散され、訪問につながり、ま

た一般旅行者にも伝わっていくことが期待できる。

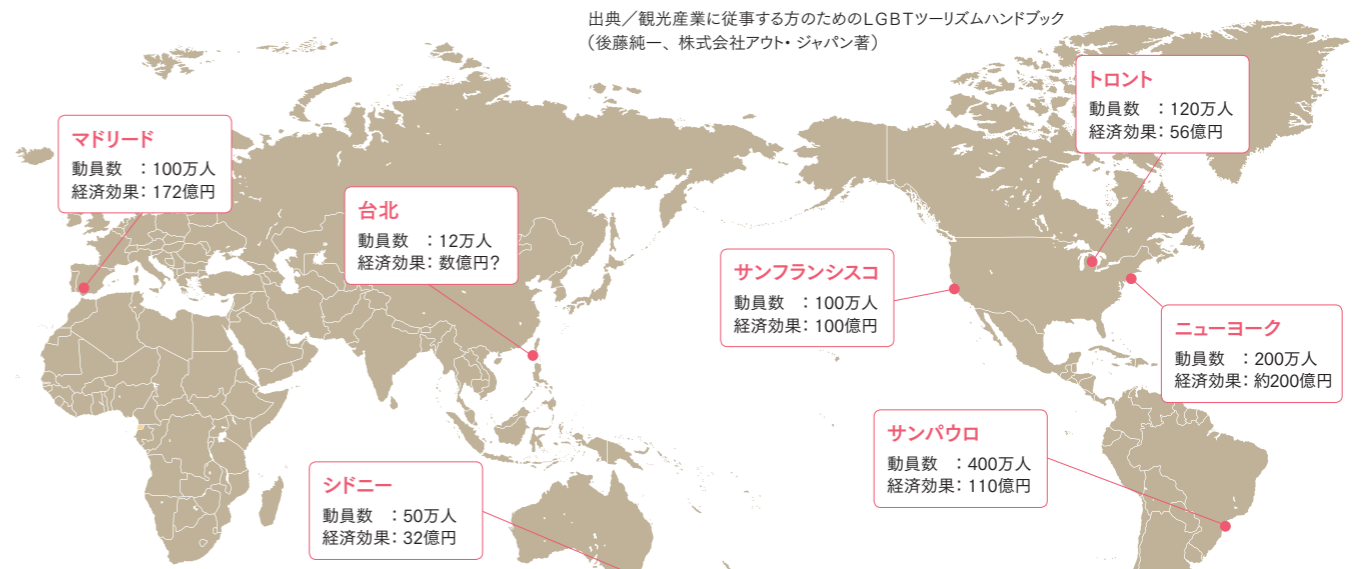
LGBTツーリズムはもはや、世界全体が取り組んでいること。この動きに合わせて取り組みを始め、「すべての人に優しい」寺社をアピールできれば、ゆくゆくは寺社の活性化にもつながっていくだろう。



LGBTフレンドリーであることが、すべての人が楽しめる寺社につながる

世界のプライドイベントとLGBTツーリズムの経済効果

出典/観光産業に従事するためのLGBTツーリズムハンドブック(後藤純一、株式会社アウト・ジャパン著)



日本のLGBTイベントスケジュール	
・GW	東京レインボープライド
・7月の連休	レインボーリール東京
・お盆	東京レインボー祭り
・9月の連休	NAGOYAレインボーウィーク ピンクドット沖縄
・10月の連休	関西レインボーパレード さっぽろレインボープライド
・11月の週末	九州レインボープライド



書道体験は作品を持ち帰って飾るための掛け軸もセット。女性は+500円で着付け体験もできる。着付けは奈央子さんが担当



境内にある陶芸教室「すばる窯」での陶芸体験もできる。文化体験のほかに動行があり、どれも宿泊者に好評



副住職はウラジオストクでの学生時代にお点前を覚え、現在も修行中。この茶道体験が外国人旅行者に好評

ご主人はウラジオストクの大学で日本語と日本の歴史を学んでいた。来日後は仁和寺で修行の後、僧籍を取得。奈央子さんは運営全般のほか着付けなどの体験も担当している



寺の西側には大阪市内と和歌山県の高野山を結ぶ中高野街道が通っている。周辺には江戸時代の街並みが残るほか、環濠集落の入口を守ってきた地蔵尊もある



境内に隣接するごく一般的な住宅を宿坊「すばる庵」として使用。民家の随所に感じる日本らしさが外国人には好評



テラハク
レポート

住宅街にひっそり佇み
副住職のお点前など
日本文化体験が充実

普段着の日本に触れる 良さが外国人に好評

新たな魅力を加え
お試しから本格運営へ

聖徳太子による創建の伝承もある古刹が、大阪市南部・喜連の住宅街にある。このあたりはかつて環濠集落があった地域で、細い路地を歩いていると、そこかしこに痕跡を見ることができると言っても、それ以外に着目するような観光スポットはない。にもかかわらず如願寺には、訪日観光客が多い。彼らの目的は「すばる庵」と名付けられた一軒家の宿坊だ。旅行者をもてなすのは副住職のヴォルコゴノフ・ドミトリー・慈真さんと、奥様で坊守の奈央子さん。寺

で生まれ育った奈央子さんは5年前まで添乗員として海外へ渡航する生活を送っていた。ウラジオストクを訪れた際、現地で日本人旅行者のガイドをしていたご主人と知り合い、その後結婚。ウラジオストクでの生活を経て、夫婦で如願寺へ戻ってきた。「もともと寺は父母が守っており、そこに私達夫婦が加わりました。父母だけなら安定して運営できていた寺も、暮らす人数が二人も増えると新たな収益が必要となります。そこで民泊を始めました」と奈央子さん。新たな収益といっても、あくまで寺の仕事をしなからできることに限られる。悩んだ末、行き着

いたのが宿坊だった。しかし、周りに人を惹きつける有名観光地があるわけではないため、成功するかどうかは未知数。なので、いきなり増改築するのも勇気がいる。そこで隣接する民家を活用することにした。海外からの利用客を念頭に年間営業180日という制限の中でいかに稼働率を上げるかを考え、外国人が喜ぶ文化体験を複数用意。予約が入ったら、宿泊当日までに何度かメールでやりとりし、希望する文化体験などを聞く。食事についても希望を聞いたうえで、近隣の飲食店まで送迎。日本を訪れる外国人旅行者に日本の普段の暮らしが好まれ始めたという

時勢も相まってか、一年後には営業可能日数ほぼすべてが埋まるほどになった。「ありがたいことに、多くの外国の方に来ていただけているだけでなく、私たちは一年で実に多くの学びも得ました。そこで料理を提供したい、もっとくつろげる空間を創りたいと考え、いよいよ境内地に新たに宿坊を設ける決意をしました」。

新しい宿坊は今年中に完成予定。最大受け入れ人数は1日3組12名、もてなしの質も上げる。観光名所のない町といいながら、数年もすると、この宿坊が一番の名所になっているかもしれない。

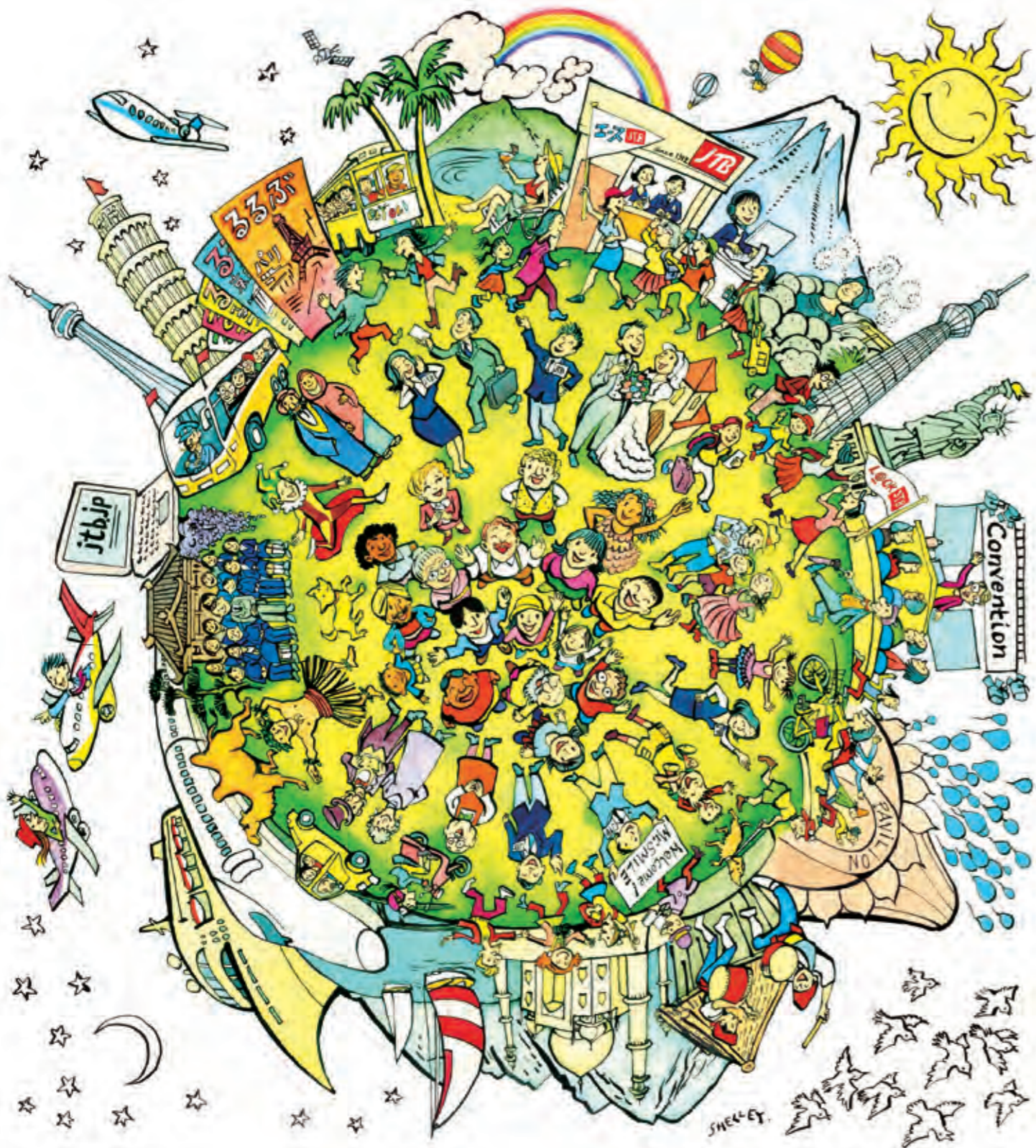
宿坊で寺社と地域を元気にする
WEBサービス「テラハク」
http://terahaku.jp
TEL: 06-6356-2090 (株式会社 和空)



真言宗御室派
霊峰山 如願寺
〒547-0027
大阪府大阪市平野区
喜連 6-1-38
TEL: 06-6709-2510



感動のそばに、いつも。



人をつなぐ、笑顔をつなぐ。
JTBは地球を舞台に、
あらゆる交流を創造し続けます。



普段は静かな白鬚田原神社(14頁)前の舗道には「どぶろく祭り」当日多くの出店が並び、賑やかに、町の人みんながこの日を楽しみにしている

寺社Now

Vol.25

編集後記

「テラハク」(30-31頁)の取り組みが、首相官邸で開催された観光戦略実行推進会議の中心的な議題となった(10頁)。地域の活性化を図る先進的な観光コンテンツとして注目されている。取材のために、いつも思う。「また来たい。また会いたい。また話したい」と。全国素敵な出会いとご縁に感謝。(W)

「すべての人を受け入れる」という第六十七世総本山大念佛法主吉村暉英猊下の言葉が優しく響いた(3頁)。祭りて人を呼ぶことも、LGBTについて考える時も、この思いが根底にあれば、より多くの人々が寺社を訪れてくれるようになるだろう。複数の企画がひとつにつながった号となりました。(H)

無料送付の継続希望

「寺社Now」無料送付の継続をご希望の場合、[寺社名・氏名・住所・電話番号]をご記入のうえ、下記FAXまたはメールアドレス宛にお送りください。ご意見・ご感想もお待ちしております。



バックナンバーが
WEBでご覧いただけます

jisy-now.com

または [寺社NOW](#)

お問合せ

一般社団法人
全国寺社観光協会 本部事務局

TEL: 06-6360-9838 FAX: 06-6360-9848
e-mail: info@jisy-kk.jp

次号は
2019年7月発行の
予定です。

監修
一般社団法人 全日本寺社観光連盟

発行人
一般社団法人 全国寺社観光協会

編集・制作協力
株式会社 glass

発行所
一般社団法人全国寺社観光協会事務局
〒530-0044
大阪府大阪市北区東天満 1丁目11番13号
AXIS 南森町ビル 11F
Tel: 06-6360-9838 Fax: 06-6360-9848

寺社Now
第25号 平成31年5月発行

本誌の表紙、記事、写真、イラストはすべて著作権で保護されています。発行人の許諾なしに複製(コピー)したり、印刷物やインターネットのWEBサイト、メール等に転載したりすることは違法となります。



挑戦の 数だけ、 保険が ある。

保険は、冒険から生まれた。
大航海という挑戦を助けるために、
勇気をつくるために、
保険は生まれた。

さあ、挑戦しよう。
人は何かを始めることで前へ進み、
世界は新しく変わってゆく。
不安も、きっとあるだろう。
でもそれは、分かち合うことで軽くなる。

世の中には2種類の人がいる。
挑戦する人、しない人。
充実した人生を送るのは、
どちらの人だろう。
人から愛され尊敬されるのは、
どちらの人だろう。
世の中を変えていくのは、
どちらの人だろう。

私たちはすべての挑戦を応援します。

To Be a Good Company
東京海上日動



JOCゴールドパートナー(損害保険)